

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 がん対策推進総合研究事業（がん政策研究事業）
小児がん経験者に対する長期的支援の在り方に関する研究（五十嵐班）

分担研究報告書

大阪府立母子保健総合医療センターにおける病院内教育環境の調査

研究分担者 井上雅美

研究要旨

小児がん患者に対する教育支援は重要な課題である。今回、大阪府立母子保健総合医療センターにおける病院内教育環境の調査を行ったところ、小中学校生への教育環境はそれなりに充実しており、退院後の地域校（原籍校）への復学に関する取り組みも積極的に行われていた。一方、高校生に対する教育環境は十分とは言えず、今後の課題と思われた。

A．研究目的

大阪府立母子保健総合医療センターにおける教育環境の実態を把握する。

B．研究方法

研究班全体で統一した以下の項目で病院内の教育環境の調査を行った。

すなわち、i) 院内学級・学校等の名称、ii) 特別支援学校本校・分校・分教室・訪問、小・中学校の病院内の特別支援学級のうちいずれか、iii) ベッドサイド事業の有無、iv) 高校教育の有無、v) IT 活用事業の有無と活用事例、vi) その他特記すべき事項、である。

C．研究結果

i) 院内学級・学校等の名称：

大阪府立羽曳野支援学校母子保健総合医療センター分教室

ii) 特別支援学校本校・分校・分教室・

訪問、小・中学校の病院内の特別支援学級のうちいずれか：

特別支援学校分教室

iii) ベッドサイド事業の有無：

ベッドサイド授業あり（感染隔離患児などを対象に個別授業を行っている）

iv) 高校教育の有無

大阪府立高校については訪問教育の実績がある。私立高校に関しては学校からの支援は得られていない。

v) IT 活用事業の有無と活用事例：

iPAD を用いた授業が行われているが、インターネットを使用する授業は行われていない。

vi) その他特記すべき事項：

医療者（医師・看護師）と分教室

との意思疎通を図るため、定期的に医
教連絡会を開催している。

地域校（原籍校）との情報交換は頻
回に行われており、退院時には保護
者・医師・看護師・支援学校教諭・地
域校（原籍校）教諭との合同カンファ
レンスが行われ、地域校（原籍校）へ
スムーズに復学できるよう努めている。

現在、分教室専用の教室がなくカン
ファレンスルームで授業を行っている。
近日中に専用教室を整備する予定であ
る。

D．考察

小中学生に対しては充実した教育を提供で

きている。今後の課題としてはインターネッ
ト授業の導入、高校生に対する教育の充実、
専用教室の整備などである。

E．結論

大阪府立母子保健総合医療センターにおけ
る小児がん患者に対する教育環境の現状、今
後の課題を明らかにできた。

G．研究発表

- 1．論文発表 該当なし。
- 2．学会発表 該当なし。

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含
む。）

該当なし。



外来アトリウムでの運動会



ホールでの授業